

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-89536

(43) 公開日 平成7年(1995)4月4日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 5 D 5/74

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 5 D 5/74

A

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平5-183388

(22) 出願日 平成5年(1993)6月30日

(71) 出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72) 発明者 遠藤 憲一

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

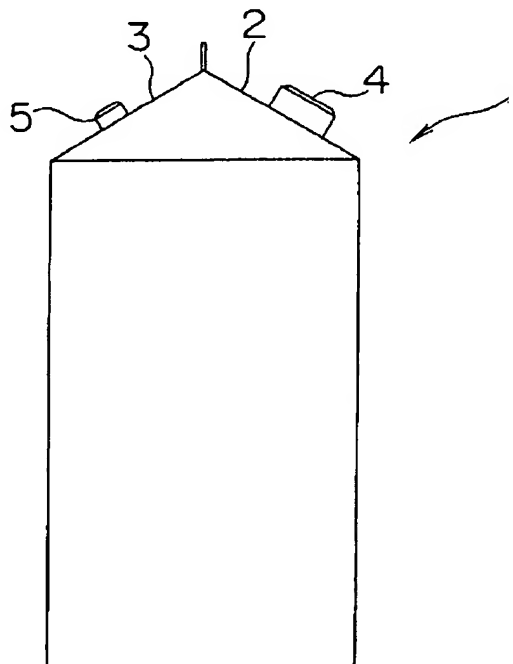
(74) 代理人 弁理士 土井 育郎

(54) 【発明の名称】 液体用紙容器

(57) 【要約】

【目的】 注出量や注出時間を適宜に選択することのできる液体用紙容器を提供する。

【構成】 紙容器1にサイズの異なる注出口4, 5を取り付ける。サイズの大きな注出口4を使用すれば注出量が多いので注出時間が少なくて済み、サイズの小さな注出口5を使用すれば注出量をコントロールしやすい。複数の注出口を適宜使い分けることにより、取出し量の精度向上や取出し時間の短縮を図ることができる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 サイズの異なる注出口を複数個取り付けたことを特徴とする液体用紙容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、飲料を始めとして種々の液体を充填密閉して販売するのに用いられる液体用紙容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、この種の液体用紙容器としては、内容液を注ぎ出すための注出口が1つだけ所定の箇所に取り付けられたものが一般的である。例えば、代表的な液体用紙容器の一つとして上部を屋根状に密封した所謂ゲーベルトップ型のものがあるが、このタイプのもでもその屋根の一方に1つの注出口を取り付けたものが販売されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のように注出口が1つだけしか付いていない液体用紙容器は、その注出口が大きい場合、大量に注出する時には注出時間が短くてよいが、注出量をコントロールするのが難しいという欠点があった。逆に、注出口の大きさが小さい場合は、注出量をコントロールするのは容易ではあるが、注出時間がかかるという欠点があった。

【0004】本発明は、上述の如き従来の液体用紙容器の欠点を解消すべく創案されたものであり、その目的とするところは、注出量や注出時間を適宜に選択することのできる液体用紙容器を提供することある。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明の液体用紙容器は、サイズの異なる注出口を複数個取り付けたことを特徴とするものである。

【0006】

【作用】上述の本発明の液体用紙容器では、サイズの大きな方の注出口が注出時間を短くする役目を果たし、一方、サイズの小さな方の注出口が注出量をコントロールする役目を果たす。

【0007】

【実施例】図1及び図2に示す実施例の液体用紙容器1は上部が屋根型をしたゲーベルトップ型であり、その両方の斜面2、3にそれぞれサイズの異なるプラスチック製の注出口4、5が取り付けられている。この紙容器1から中の液体を注出する場合、大きい方の注出口4を開

2

けて使用すれば注出量が多いので注出時間が少なくて済み、小さい方の注出口5を開けて使用すれば注出量をコントロールしやすくなる。本実施例のものでは内容液を注ぐ時に傾ける向きがそれぞれの注出口4、5で逆になるので、両方の注出口4、5を開けた状態で片方の注出口から注ぐようにすれば、もう一方の注出口は空気抜きの役目を果たすので注ぎやすくなるという利点がある。また、本実施例のタイプでは、図示の如きキャップ付きの注出口に限らず、開放型の注出口を採用することも可能である。

【0008】図3及び図4に示す実施例の液体用紙容器6も先のものと同じく上部に斜面7、8を有するゲーベルトップ型であり、その片方の斜面7にサイズの異なるプラスチック製の注出口9、10が取り付けられている。この紙容器6の場合も、大小2つの注出口9、10を適宜使い分けることができるが、注ぐために傾斜する向きが同じであるため、一方の注出口を使用する時には他方の注出口を閉じておく必要がある。

【0009】なお、本発明は、上記の如きゲーベルトップ型のものに限らず、任意のタイプの紙容器に適用できることはいうまでもない。また、取り付ける注出口の数は2つに限らず、必要に応じて3つ以上取り付けてもよいものである。

【0010】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の液体用紙容器は、サイズの異なる注出口を複数個取り付けただけで、これらの注出口を使い分けることによって注ぎ出す内容液の注出量や注出時間を適宜選択することができ、したがって取出し量の精度向上や取出し時間の短縮を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る液体用紙容器の一実施例を示す側面図である。

【図2】同じく上方から見た平面図である。

【図3】本発明に係る液体用紙容器の他の実施例を示す側面図である。

【図4】同じく上方から見た平面図である。

【符号の説明】

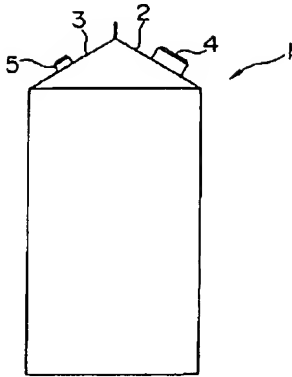
1 液体用紙容器

4、5 注出口

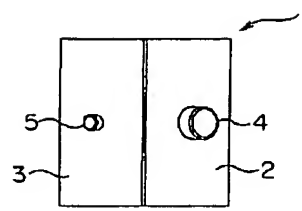
6 液体用紙容器

9、10 注出口

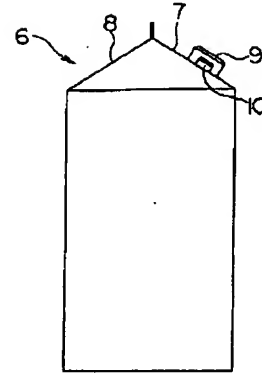
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

